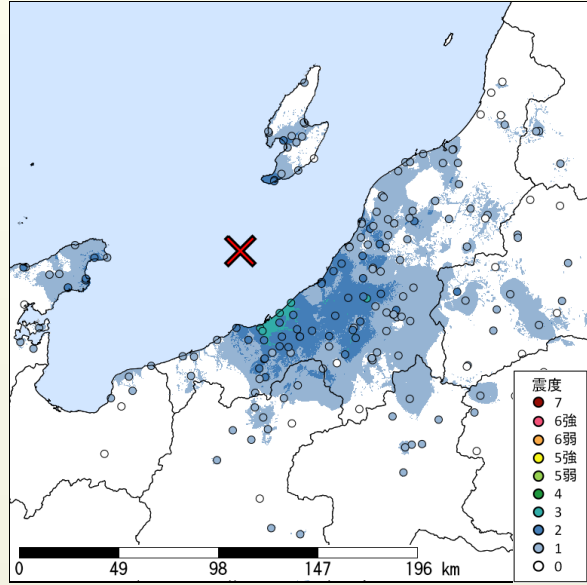


M 4.6, 震源地:新潟県上中越沖, 深さ約10km, 2026/06/01 05:54頃発生 (気象庁発表)

震度の分布 最大観測震度3(*) 主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

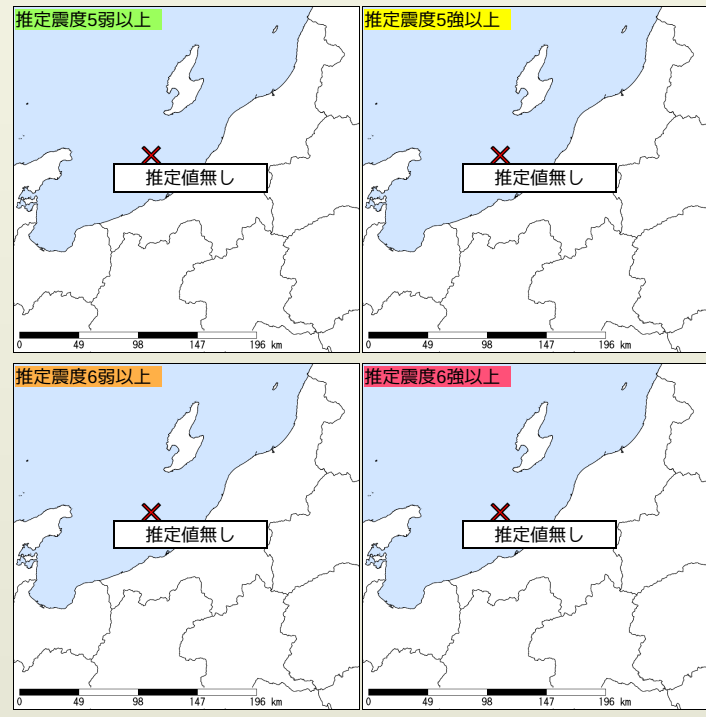


最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布	市区町村名	全人口: 夜間 (人)	震央距離 (km)
3	1 2 3 4 5-5+6-6+7	新潟県上越市	200,000	40
3		新潟県小千谷市	36,000	64

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

解析開始時点(2026/06/01 06:05:02)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生日	地震名	M	被害
1941	長野県北部	6.1	長野市北東の村々に被害があり、死5、住家全壊29、半壊115、非住家全壊48。
1943	長野県北部	5.9	死1、住家全壊14、半壊66、非住家全壊20。その他、道路の亀裂などがあつた。
1961	新潟県中越地方	5.2	典型的な局地地震で、被害は直径2kmの範囲に集中した。死5、住家全壊220、半壊465。
1965	長野県北部(松代群発地震)	5.4	この日に松代首神山付近に始まり、少しずつ活動域を広げていった。ほとんど終息した1970年末までに松代で有感地震62821回、うち震度5、4はそれぞれ9回、50回だった。被害を伴った地震は51回、全体で傷15、住家全壊10、半壊4、山産崩れ60、最も規模の大きかった地震はM5.4で、総エネルギーは、M6.4の地震1個に相当する。この間に首神山が1m隆起した。
2004	新潟県中越地方(新潟県中越地震)	6.8	「新潟-神戸釜み集中帯」に属する活層帯で発生した逆断層型地震(深さ13km)。規模の大きな余震が多数発生(M6以上4余震)して被害を助長、死68、傷4805、住家全壊3175、半壊13810。川口町で震度7(計測震度導入後初めて)、震源域の地質を反映して地すべりの被害が目立った。
2007	新潟県上中越沖(新潟県中越沖地震)	6.8	新潟県沿岸海域の逆断層型地殻内地震(深さ17km)。2004年中越地震に近いが余震活動は不活発。震源域内の原子力発電所が被災した初めての例。死15、傷2346、住家全壊1331、半壊5710。最大震度6強(新潟県3市村、長野県1町)、地盤変状・液状化なども目立った。日本海沿岸で最大35cm(相崎)の津波。
2011	長野・新潟県境	6.7	東北地方太平洋沖地震の遠方誘発地震で逆断層型地殻内地震(深さ8km)。傷57、住家全壊73、半壊427(長野県・新潟県による、関連死を含まない)。最大震度6強(長野県栄村)、震度6弱が新潟県2市町。
2014	長野県北部	6.7	逆断層型地殻内地震(深さ5km)。糸魚川-静岡構造線断層帯の北部部分で発生したと考えられる。住家全壊77、半壊137(2015年1月5日現在)。最大震度6弱(長野県長野市・小谷村・小川村)。

出典: 国立天文台編「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)。一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布

再現期間50000年相当の計測震度分布

